



## ブルネイ訪問記

### 1. はじめに

ASEAN加盟国の一つであるブルネイについて、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか？ 国の名前は聞いたことがあるものの、どこにあるのか知らない方も多いと思います。本稿では、筆者が実際に訪問した感想も交えながら、ブルネイについて紹介します。

### 2. 基本情報

正式名称は「ブルネイ・ダルサラーム」で、「永遠に平和な国」を意味します。1984年に英国から独立した比較的新しい国です。ボルネオ島（カリマンタン島）の北部で南シナ海に面し、内陸側はマレーシアと接しています。首都はバンドルシリブガワン。国土の面積は三重県と同程度で、人口は約42万人です。

公用語はブルネイ・マレー語ですが、英語

も広く使われています。通貨のブルネイドルはシンガポールドルと等価に固定されており、ブルネイでシンガポールドルを用いることも可能です（硬貨を除きます）。

### 3. 宗教

イスラム教が国教と定められており、お祈りの時間になるとモスクには多くの人を訪れます。観光客もお祈りの時間以外はモスクの中に入ることができます。国内でのアルコール類の販売・提供は禁止されており、ホテルやレストランも含めてアルコール類は一切入手できません。（但し、外国人が持ち込むことは可能。）

空港の世界時計には、もちろんメッカ（Makkah）の時刻も表示されています。また、金曜日の正午から14時まではお祈りのため全ての商業施設が一時休止します。ホテルのレストランも閉まりますので、金曜の昼を



出典：外務省



オールドモスク



ブルネイ空港の世界時計

ブルネイで過ごす方は要注意です。

#### 4. 人々の生活

ブルネイの一人当たりGDPは第30位（2016年、IMF調べ）で、日本（第22位）と台湾（第36位）の間に位置し、ASEAN10ヶ国の中でもシンガポール（第10位）に次ぐ順位です。これは石油と天然ガスの輸出に拠るところが大きいです。実際、南シナ海に面したホテルからは油田の明りも確認できます。近年は原油価格の下落もあることから観光業にも力を入れ始めたようですが、観光業はまだまだというところではあります。

個人に対して所得税や住民税は課税されず、政府による社会福祉も充実しているため、市街地でホームレスを見かけることもありません。ブルネイ川沿いの水上集落も電気や下水道が完備しており、東南アジア特有の臭いがすることもありません。低所得者層が水上集落に住むということでもありません。

人口密度が低いこともありますが、街中でひどい渋滞に巻き込まれることもありません。インドネシアやベトナムと異なり、信号待ちをする多くのオートバイを見かけることもありません。公共交通機関はあまり発展し



水上集落 (Kampong Ayer:カンポン・アィール)

ておらず車が必需品となりますが、国民の多くが車を所有できる豊かな暮らしを送っているように見えます。更に、アルコール類が提供されないこともあって、東南アジアの中では治安のよい国と言えます。

#### 著者紹介

##### 高橋 明雄 (たかはし・あきお)

グローバル・アイビー東京特許業務法人 代表弁理士  
1979年埼玉県生まれ。2005年東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修了。専門は物理。2005年弁理士試験合格。2010年米国パテントエージェント試験合格。企業知財部を経て特許事務所へ。2013年1月より現職。近年はインド、ASEANを中心とする海外現地代理人との連携に注力。

#### 編集者紹介

##### 木本 大介 (きもと・だいすけ)

日本弁理士、グローバル・アイビー東京特許業務法人所属。  
1977年神奈川県生まれ。2003年上智大学大学院理工学研究科電気電子工学修了。専門は通信、エレクトロニクス及びコンピュータソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業(知財部)3年、特許事務所7年の経験を経て、2013年7月より現職。趣味はゴルフ。好きな言葉は「人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力」(稲盛和夫(2012)『生き方』より)。  
<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>